

解 答

一

問一 ① さっこん ② けわ ③ 里山 ④ 価値観

問二 1 左 2 左 問三 そう 問四 イ

問五 作物以外の動植物が排除されてしまうこと。

問六 農業とは土地に食べ物を植えて収穫する行いであるから、効率を上げるため、化学肥料や機械、農薬を用いて作物以外の動植物を排除するのは、農業の必然である。いてもいなくてもいいトキを復帰させるために農民から効率的な農作業を奪うことは、その必然に反するから。

二

問一 ① 似合 ② 誕生 ③ 不思議 ④ からて

問二 友達でいるのをやめると花蓮に伝えること。

問三 ア 問四 ア 問五 イ・オ

問六 由美は自分だけが欠点だらけの存在だと思いこんで、ほかの人たちにあこがれてきたが、ほかの人たちもけっして完全な存在などではないということに気づき、それと同時に、いまの自分自身が必ずしもとりたてて悪いものではないということにも思いいたった。そして、いまの自分のままでがんばろうと思うようになった。

解 説

一

問二 1・2のいずれも「農業生産を上げること」を阻害するものである。

問四 直前の「農民は農作業だけではなく…もできなければつとまらない」ということを「百姓」と言いかえています。この場合の「姓」とは、さまざまな血縁集団、あるいは、特定の仕事に従事する人間集団を表します。「百姓」とは「百（たくさん）」のさまざまな「姓（階級・仕事）」をもった人間ということになります。その百の仕事を一ひとりでこなすのが「百姓（農民）」であると、ここではいつているわけです。

問五 「作物以外の動植物を……排除しようとする」「動植物が減ること」が、副作用にあたります。しかし、それこそが伝統的農業がめざしたものであって、トキについても、農民が意識的に排除しなくても、便利な農作業によって田んぼにいた貝や魚やザリガニが排除されるとともに消えていく運命にあったわけです。

問六 トキを減少させたのは「便利な農作業」です。農業の効率をあげるために土地改良や機械化が行われ、農薬が使われ、そのためにトキの住む環境が破壊されたのだと考えられます。トキを守るということは、これの逆を行うこと、つまり、効率化をおさえ、農業の阻害要因を受け入れるということになります。だから「まともではない」というのです。

二

問二 そのときの由美は「友達じゃないって言わなきゃ」と思いつつ、なかなかことばに出せないという状態でした。そんな由美を応援して、ことばに出させたということです。

問三 その花蓮ちゃんの声を「あまりに哀しそうで」と表現しています。ただし「強くて大きな声」とも表現されていますから、「よわよわしい」声ではないのでしょう。「いたいたい」とは漢字で書けば「痛痛しい」。とてもつらそうな声だとわかります。

問四 このあとに「ママの好みの服を着ている」「本当に習いたいのは……空手」「そんなこと言ったら……言えなかった」と書かれています。この「言えなかった」は、由美に言えなかったということであって、ママに言えなかった

ということではありません。これが花蓮ちゃんが「我慢」していたことの内容です。

問五 ママは「どうして仕事の邪魔をするの？ 本当に『お母さん』をやめちゃうわよ」と言っていました。今回、会社をやめるというのは、仕事よりも「お母さん」でいることを選ぶということです。

問六 このあとに書かれていることをまとめればいいでしょう。とくに由美がどのように変わったのかを中心に説明すると、自分が嫌いでいじめて、ほかの人にあこがれてばかりいたけれど、ほかの人にも欠けているものがあることに気づいた。その結果、このままでがんばろうという気持ちになれた。というような答えになるでしょう。